第４章

神がなされた事をいかに手に入れるか

「御子を信ずる者は永遠の生命をもち、御子に従はぬ者は生命を見ず、反って神の怒その上に止るなり。」

（ヨハネ伝３章３６節）

◎教師の皆様、ここにこの授業のあなたの目的があります。

1.最初にあなたの生徒に、神との「関係」に入れる唯一の方法は、イエス・キリストを個人的な救い主として信じることだ、と教えて下さい。

2.次にあなたの生徒に、新生はイエス・キリストを信じる、あるいは信仰する、その時点に起きることを教えて下さい。

3.あなたの第三の目的は、あなたの生徒に手を貸して、信じたのかどうかを確実に決めてあげることです。

4.あなたの主要な目的は、あなたの生徒を導いて、主イエス・キリストをその個人的な救い主として信じるようにしてあげることです。もし生徒が以前にそうしていなかったらです。教師の皆様、これこそすべての授業の中で最も大切なことです。そしてこれが六つの授業のうちで、最も重要なあなたの目的なのです。この視点で真理をうまく扱えるように、神からの智恵を祈り求めなさい。

5.この授業のもう一つの目的は、あなたの生徒にその救いの確実性、又は保証の根拠を示してあげることです。

6.この授業の最後の目的は、あなたの生徒にその神との関係が永久のものである、という実感と確信を置いてゆくことです。

◎主題、意図と適用

主題

「神がなされた事をいかに手に入れるか」

意図

キリストの福音のみわざが、いかなる個人にとってもその価値となる為には、それが信仰

によって受け入れられなければなりません。

適用

「信頼」という意味での信仰が何であるかを、生徒が理解しているかどうか確かめ、生徒に信じたかどうかという事柄に直面させることです。これは主としてヨハネ伝３：３６を注意深く調べることにより、成し遂げられます。この検証の間に、すべての失せた生徒には信じるように大いなる勧めがなされるべきです。

◎第四課の提示

あなたは家に着いて、いつもの挨拶を交わした後、おさらいを始めて下さい。第三課の始めに述べたのと同じように、以前教えた知識の短い復唱が適切です。あなたのおさらいは失せた人々の救いの為に必要なすべてのことが、イエス・キリストによって既になされている、という事実の強調で終えるべきです。どんな人であれ、失せたままでいる唯一の理由は、キリストのみわざを自分のものとして、個人的に手に入れていないからです。

教師の皆様、私はあなたにこの第四課が続きものの内では、最も重要な課であることをいくら強調しても足りない位です。最初の三課はすべて、あなたをここに至らせる為の土台にすぎません。もしあなたの生徒が失せているとしたら、ここは生徒をキリストに勝ちとる為にも、あなた又は他の誰かにとっておそらく一番良い、最もあつらえむきの機会となるでしょう。もしあなたが前の仕事をうまくこなし、第四課の諸真理をよく示すことができたら、神のみことばという偉大な諸真理の威力は、あなたの背後にあります。それは神のみ霊の諸真理であって、実際説得力のある、どっしりとしたものです。これらの諸真理を提示する、委ねた神の道具となれるように、あなたのベストを尽くしなさい。もしあなたの生徒が失せており、あなたがここで生徒を動かせなかったら、第五課と第六課の諸真理は、生徒にとってはすべて学究的なものだけになるでしょう。（そうです。あなたは先に進んで、それらを教える必要があります。でもあなたが第五課を始める時に、そこと第六課で教える事は、あなたが第四課で教えたことになる信仰の地点を、生徒が通過するまでは益とならない、ということを説明して下さい。）

Ｉおさらいから、神が失せた罪人に求めておられる一つの事はイエス・キリストを個人的な救い主として信じる事だ、という事実にすらすらと進んで下さい。

Ａ私は自分の生徒に（図の適当な場所に「信じる」と書きながら）世と、クリスチャン

と自称する様々な宗教的なグループでも、救われる為にいろいろな良いおこないを主張する、という事を思い出させます。

1バプテスマを主張する人がいます。また良いおこないを忠実に生みだす事を主張する人もいます。

2自分たちの教会の会員となることが救いの為に大切だ、と言う人は多くいます。また異言を語っていなければ、救いを得ていない、と言う人もいます。

3大抵の人々や宗教的なグループは、立派な生活をしていなければ、天国に行けないと言うでしょう。

Bでも私は自分の生徒にこう語ります。イエス・キリストのみわざをあなた自身のものとし救われる為に、何が必要だと神は言っておられるのか、聖書からじかにあなたに示したいのだ、と。この視点では、私はどちらかというと、いくつかの節をどんどん進んで、神のみことばに自ら語って頂きます。私は進みながら、例示したように、それらの節を図に書いて行きます。

1図に使徒１６：３０－３１を加え、救われる為にどうしたらよいのかという、単刀直入な質問と、与えられている正しい答えを示しなさい。

2ヨハネ５：２４を図に加えなさい。あなたがこの節を引用するか読む時、図上の適当な箇所を示すのも効果があります。

3ヨハネ３：１５－１８を図に加えなさい。あなたがこれらの節を読むか引用する時（あなたの生徒もその章節を見ています）この短い章節で「信じる」という言葉が出てくる度に（五回）それを強調して下さい。あなたの生徒に、何も足したり引いたりする必要はなく、ただ「信仰」だけだ、ということをよく理解させて下さい。この事は世の考えとは大変異なる、という点を強調して下さい。でもこれが聖書で神の言われた事なのです。

Ⅱ次にあなたの生徒に、信じたあるいは信仰の時点で、新生が生じる事を教えて下さい。（既に示したように、図に「新生」と書いて下さい。）

A聖書からこれが真理である事を、生徒に示して下さい。

1図にヨハネ３：１－１４を書いて、あなたの生徒にそこをめくるよう求めなさい。生徒にイエスが話しておられる事を示して下さい。そして新生を別にしたら、人は

「神の国を見ること能はず」と３節で言われ、「神の国に入ること能はず」と５節で言われた事を示して下さい。生徒に、イエスが７節で「なんぢら新に生るべし」と言われた事も示して下さい。あなたは本文から、ニコデモが新たに生まれるとはどういう事か解らなかった、という点を説明することが出来ます。本文は明らかに彼が肉的な言葉遣いだけで考えていた事を示しています。しかしイエスは、自然の誕生が肉的で、死すべき生命の為に必要であるように、霊的な誕生が、霊的で永遠な生命の為に必要である事を、説明されました。生徒に、イエスがニコデモに１４－１６節で次のことを説明された点を示して下さい。即ちイスラエルの子孫等が信仰により、モーセがさおの上に挙げた銅の蛇を見て、蛇咬傷での死からの肉体の救いを得たように、十字架に挙げられるべきイエスを信仰により見る事が、イエスの言われた「新生」という霊的な癒し、又は解放になる事です。言い替えれば、イエス・キリストを信じる事が、新生に等しい訳です。というのは、新生は人が信じた瞬間にその心の中で起る事だからです。あなたがヨハネ３：１－１８を連続的な会話として観る時、これがニコデモに対する（そしてすべての人に対する）イエスの説明である訳です。

２今あなたの生徒にヨハネ第一書５：１を開かせ、それを図に書きなさい。あなたの生徒に、この節が明確に「イエスをキリストと信ずる者は、神より生れたるなり」と言っている事を示して下さい。新生が信仰の時点で起る事は、疑いがありえません。

Ｂあなたの生徒に、神は聖書において霊的な真理を例で説明するのに、家族の姿を用いておられる、という点を説明して下さい。

１イメージとか対比の使用は、かなり一般的な教えの工夫です。イエスは譬え話の中で、それをよく使われました。霊的な真理を教え、例で説明するのに、肉的なものが使われたのです。ですからイエスは神のみことばを種に、信徒を羊に、かたくなな心を石地に譬えられたのです。

２聖書におけるさらに広範な対比の一つは、肉的な家族と霊的な家族との対比です。それはイエスのみことばのみならず、パウロ、ペテロそしてその他の人々のことばの中にも見られます。「生まれた」「父」「子供たち」「兄弟」「息子」それに、

「家族」といった言葉はすべて、私たちが肉的な家族の関係を討論する時、用いるものです。こうした言葉はまた、霊的な神の家族を論じる時にも使われ、私たちに信徒が神との間にもつ霊的な関係の性質についての、洞察力を与えてくれます。

肉的な家族に加わり、その関係を確立するのに、自然の出生が必要であるようにイエスも、神の霊的な家族に加わり、霊的な関係を確立するのに、霊的な出生が必要である、という事を教えられました。新生により神は「我らの父」（マタイ６：９）となられ、私たちは「神の子」（ヨハネ第一書３：２）として確立します。こうして私たちは、主にあって「兄弟」（テサロニケ前４：１３）なのです。

もし神の霊的な家族が、肉的な家族に対比され、それがこれらの聖書箇所の示す通りであるなら、対比による検証は、いくつかの誤った考えの妥当性をすべて取り除き、同時に、めぐみによる救いの考えの、真である事を立証しているのです。例えば、どの人でも働けばある肉の家族に加われるなどといった考えの滑稽さを想像してみて下さい。あるいは、相当な善人なら誰でもある家族に加われるなどと誰が考えるでしょうか。そんな考えはばかげています。誰でも自然の家族に加わる唯一の方法を知っています。それは出生によるのです。誰も働いて、あるいは相当な善人の為、ある自然の家族に加わった訳ではないのです。アダムとエバのみ生まれたのではありません。彼らは特別な創造により、神によって造られたのです。働きにより、また相当善である事により、神の霊的な家族に加わるという考えが、ばかげており、聖書の教えに無関係である事は、自然の家族の一員になる為の働きと善の考えと同じです。けれども、世と多くの「クリスチャンの教派」とされている人々は、あなたに一生懸命働きなさい、善を行ないなさい、そうすればあなたは天国へ行けます、と教えています。教師の皆様、あなたの生徒が、そんな事は皆いかにばかげており、聖書の思考とは似ても似つかぬものであるか、を認識しているかどうか、しかと見届けて下さい。

家族の対比の問題にまだ関わっている間に、人がその自然の家族から抜け出す事はいかに不可能であるか、をあなたの生徒に思い起こさせて下さい。人の善悪は、家族におけるその関係とは、何ら関わりありません。たとえ人が盗み、強姦し、殺し、刑務所で全くの悪者だったとしても、家族の一員である事は、仮に可能な最高

の、健全で、成功した、申し分ない生活を送ったとしても、そうである事と同じです。けれども霊的な家族という事になると、クリスチャンと自称する人でも、もしあなたが悪い事をして、ある罪を犯したら、再び失せる、あるいはあなたの家族の関係を失うことになる、と主張する人は多くいます。あなたの生徒に、そうした人々はいまだに「よいおこない」の考えにとらわれているのだ、という点を示して下さい。彼らはまだその「おこない」を伴う「自己」を捨てて、神のみこころに委ねそのみ助けを仰ぐことをしていません。事実は、霊的にせよ、肉的にせよ、おこないは家族の関係とは関わりありません。出生のみが家族の関係を確立し、出生が関係を永遠に確立します。それは肉的にも霊的にもです。血筋による霊的な家族関係（それがここで私たちの論じている唯一の類です。肉的にせよ、霊的にせよです）から逃れるすごい可能性が人にない事は、血筋による肉的な家族関係から逃れる可能性がないのと同じです。両方とも可能性はゼロです。

教師の皆様、こうした家族的な視点をよく確立して下さい。はじめからあなたは、信徒の保証を系統的に教えてきているのです。それは系統的にまとめられて、全授業になる訳ですが、特に最初の四課です。でもここで問題はますます強くなりつつあります。あなたはここで、その視点を大変強力に、しかしたやすく掴めるやりかたで叩き込む、本当の機会を与えられているのです。

Ⅲ今あなたの生徒に、あなたが、人が救われているかどうかを確実に決定する為の、特別な方法を調べてみようとしている、という事を告げて下さい。

Ａあなたがこの視点を示すため、ヨハネ３：３６に焦点を絞ろうとしていることを、あなたの生徒に説明して下さい。

１生徒にここを開くよう求めなさい。

２今度はあなたは図の裏側をめくって、ヨハネ３：３６と書き、例に示したように、その節の一部を書き出しなさい。

３あなたの生徒に、英文法のクラスでやっているような図解を、ヨハネ３：３６で大いにやるつもりである、と言って下さい。生徒に、同じ視点を確立する、似たような多くの聖書箇所から、あなたがヨハネ３：３６を選んだ点を伝えて下さい。ヨハネ３：３６はたまたま示すのに、極めて明快でやさしい箇所であるに過ぎません。

Bここにヨハネ３：３６を教え、例で示し、人が神との関わりにおいて（あるいは、その欠如において）どこに位置しているのか、正確に決定するのを助けるやりかたがあります。

１まずヨハネ第一書５：１３を図に加えて下さい。ここを開き、この節からあなたの生徒に、私たちが救われている点を確かに「知り」得ることを示して下さい。誰でもどのグループに属しているか、あやふやであるべき理由はありません。人々が救われているかどうか、確かに知る事は出来ない、と言う人もいます。でも神は出来ると言われるのです。

またヨハネ第一書５：１３から、私たちが「書かれている」事柄の故に知り得る点を示して下さい。言い換えれば、神は私たちに判断するための方策を与えて下さったのです。そしてその方策とは、明確な聖書であって、それが救われる為に何が必要か正しく述べているのです。もし私たちがその問題について何ら書かれたみことばを持っていなかったら、私たちが救われているかどうか、確信する事は出来ないでしょう。でも実際は書かれたみことばがあるので、確信出来るのです。

例

私は自分のペンを取り上げて、生徒にそれが何インチあるか尋ねます。もし私がそれぞれ十人の人に尋ねたら、たぶん十もの異なる答えを得るだろう、という事を指摘します。でもその長さについて、私たちを皆一致させる方法が一つあります。あて推量を除いてです。私たちはものさしを用いてそのペンの長さを計る事が出来ます。そしてその長さを正確に言えるのです。同様に私たちも神のものさしにより、自分自身を霊的に計る事が出来ます。そしてその問題にあてられているのが、神の書かれたみことばのあの部分なのです。そうする事によって、私たちは霊的に位置している所から、すべてのあて推量を除きます。私たちは失せているか、救われているか、確実に知る事が出来ます。

２さてあなたの生徒をヨハネがヨハネ３：３６で書いた事実に向けさせて下さい。それをあなたは、部分的ですが、図の裏側に書きました。ヨハネ３：３６は同じ論点の肯定的な面と否定的な面を両方与えている事を説明して下さい。肯定的な説明とは、もしあなたが信徒であるなら、永遠のいのちを持っている、ということであり

否定的な言明は、もしあなたが信徒でなかったら、永遠のいのちを持たない、ということです。例解の目的のため、あなたはその問題に肯定的な面から近づいてゆくことになります。

この視点では、既に示したように、「御子を信ずる者は」と「永遠のいのちをもち」との間に縦線を引いて下さい。あなたの生徒に、これは本当に「もし」という事であり、「それなら」という事で神からの命題が続く点を教えて下さい。神はここで、もしあなたが御子を信じるならば、その時あなたは永遠のいのちを持つ、ということを言っておられるのです。よく注意して下さい。これがそこで神の言っておられる事なのです。それはある人、又はグループの人々の意見ではありません。

3次に「永遠のいのちをもつ」の下に、水平の逆さ括弧を引き、例に示したように、その下に「神の側」と書きなさい。あなたの生徒に、神のみが永遠のいのちを与える事がお出来になる、という点を説明して下さい。それは買うことも、製造することも出来ません。いのちはいのちから生じる、というのが観察出来る科学的事実です。永遠のいのちを得る唯一の所は、永遠の神が起点です。しかし神はこのヨハネ3：36で、イエス・キリストを信じるすべての人が、永遠のいのちを「もつ」と言われました。

あなたの生徒と「もつ」ということを討論して下さい。それは英語ではｈａｓの代わりの古い英語ｈａｔｈになっていますが、今すぐを意味します。即ち現在の時点です。信徒は天国に着いた時、救われ、永遠のいのちを得るのではありません。信徒は今すぐそれをもつのです。肉体はいまだ死すべきものですが、霊は永遠のいのちをもつのです。これはさらに、人が救われている点を今すぐ知る事が出来る、という事実を立証します。人は肉体の死を待って初めて、その霊が天国に行くのか火の池に行くのかを知るのではありません。

次に「永遠のいのち」をあなたの生徒と討論して下さい。この授業に対するあなたの目的の一つが、救いあるいは神との関係は永遠である、との理解と確信を、あなたの生徒に託すことである点を、覚えて下さい。その考えは、あなたがずっと教えてきた永遠の贖いという全計画に固有のものです。しかしここは焦点が直接その視点にかかっている、特別な所です。ですからここで信徒の永遠の保証について、

深く進んで下さい。「永遠」という言葉を扱って下さい。神は意図しておられる事を言われ、その諸真理を表すのに、間違った用語を選ばれることはない、という点をあなたの生徒に覚えさせて下さい。神は「一時の」という言葉を用いるべき時に「永遠の」という言葉を使われたことはありません。

ここで例を示して下さい。

時々私はいささかコミカルに、美容師はその仕事を説明するのに、用語を誤って用いていると、自分の生徒に言います。婦人方は各自の美容師の所に行って、パーマをかけてもらいます。でも二三ケ月以内に再びやってきて、またパーマをかけてもらわなければなりません。最初のパーマがなくなってしまったからです。さて誰かその事を深刻に考えている人なら、そのパーマは「テンポラリイ」（※一時的なという意味）と呼んだ方がよい、という事を悟るでしょう。なぜならそれはちっともパーマ（※英語のパーマネントとは永遠のという意味）ではないからです。しかし神はそうした言葉の誤用をされません。神がいのちと呼ばれる時、すべての信徒に「永遠のもの」を与えられるのです。それはまさしくその通りのものです。一時的なものではないのです。それを手に入れる人は皆、それを永遠にもつのです。そうでなければ、それは一時的なものであるにすぎないでしょう。

教師の皆様、この視点では既に示したように、図にロマ８：３１－３９を加え、それを引用するか読みなさい。それは信徒がキリストにあって永遠に安全である、という確かな言葉がどっさり載っている箇所です。私はこの視点をさらに有効なものとする為、時々ヨハネ６：３５，３７，３９，４０を用います。特に３９節のイエスのみことば「我その一つをも失はずして」を示します。私は自分の生徒に尋ねます。「これをうそだとするのには、彼は何人を失わなければならないですか」そして私は自分自身の質問に答えて、「たった一人で十分です」と言います。それから私は生徒にこう言います。「もし過去に、あるいは現在、あるいはこれから、救われていながら、その救いを失い、かくて「救われていない者」となった人が、一人でもでたら、イエスはヨハネ６：３９でうそをつかれたことになります。そして彼がそこでうそをつかれたのなら、他の多くの箇所でうそをついておられなかったなどと、どうして私たちは知る事が出来るでしょうか。」真実は、イエスはヨハネ

６：３９でうそをつかれなかったし、他のどの箇所でもそううでした。彼がみもとにやってくる者を一人も失わないと言われた時、それこそまさしく彼の意図された事でした。それは救われた人は依然救われているし、これからもいつでも救われている、という意味です。誰一人として、その「永遠のいのち」を失うような危険は少しもないのです。さらに、もし人が実際それを失う事があったら、「永遠に」ではなく、むしろ「一時的な」ものだった事になります。その場合、イエスはヨハネ３：１５－１６で「永遠の」と「永続する」（※ギリシャ語は同じだが欽定訳は、この二つの言葉を用いている）という言葉を使われたのですから、二度うそをつかれたことになるでしょう。しかし神はうそをつかれません。また間違った言葉を用いられません。そして神が「御子を信ずる者は永遠のいのちをもち」と言われた時それはまさしく神の意図されたことであり、その方法なのです。

４あなたが［永遠のいのちをもつ］という事柄を扱ったからには、大変重大な視点を深く打ち込む必要があります。それは神とそのみことばの完全さと関係します。そしてあなたの生徒がこの真理をしっかりとつかむ事が、その救いにかかわる個人的な確信のために絶対必要です。

あなたの生徒にヨハネ３：３６の肯定的な確約は、神による「もし」「それならば」という命題である事を銘記させて下さい。神はもしあなたがみ子を信じるならば、あなたは永遠のいのちを持つ、と言われるのです。これが「神の」命題であるという事実を強調して下さい。次にあなたの生徒に「あなたが、あるいはどの人でもいいですが、み子を信じながら、永遠のいのちを得られなかった、と仮定してみましょう。そうしたらこの命題はどうなりますか」と尋ねて下さい。生徒に４～５秒それについて考える時間を与えて下さい。そしてその後、生徒の代わりに答えを与え、こう言って下さい。「それならばこの命題はうそという事になります」と。教師の皆様、ここでいっそう努力して下さい。この視点を詳細に説明して下さい。もし御子を信じながら、「永遠のいのち」を得られなかった、あるいは持っていない人が一人でもいたら、神はここヨハネ３：３６で、その事につきうそをつかれたことになります。しかし、あなたの生徒に断言して下さい。神はうそをつかれません。テトス１：２は「偽り給ふこと能は」ず（※永井訳）と言っています。ですか

らこれは真の確約なのです。さてあなたの生徒に、生徒にとってのその事の個人的な意義とは、もし生徒が御子を信じた事を確信出来れば、永遠のいのちを持ち、救われ、グループ２にいる事を確信出来る点だ、と教えて下さい。それをはっきりのみこませて下さい。必ず生徒にこの視点を理解させて下さい。一度生徒が御子を信じたなら、どのようにして救われている事を知る事が出来るのでしょうか。神が生徒は救われている、と言われるからです。どこで？ここヨハネ３：３６でです。それは、救いの確信がよいおこないや、感情的な体験、救われているという感じ、あるいは深い誠実さなどに基づいていない事を意味します。違うのです！救われている事を知っている人々は、神がそうだと言われたから救われているのだ、ということを知っている訳です。何か神秘的な声、あるいは天から降ってきた岩にあった特別なしるしから知ったのではありません。神が聖書を通して、人々に語られたのです。その確かめられる書、ヨハネ３：３６や、いくつかの似たような聖書箇所でです。私は自分が救われている事をどのようにして知るのでしょうか。神がそうだ、と言われるのです！どこで？ヨハネ３：３６で。私は御子を信じたあのグループにいるのです。そして神はそのグループの誰もが永遠のいのちを持つ、と言われるのです。私は神の約束に頼っています。もし神がうそをついておられるのなら、私は永遠のいのちを持ちません。しかし、神がもし真理を語っておられるのなら、私はそれを持ちます。そして証拠の示すところでは、神は真理を語っておられます。わたしは神が真理を語っておられると信じます。私の救いは神のみことばとおなじくすばらしいものです。私の確信は神とそのみことばの完全性に基づいています。感情やよい生きかたという大きな行路の記録を維持しようとする、自分自身の弱い能力にではありません。私の救いは神のみことばとおなじくすばらしいものです。わたしは御子を信じました。そして神は私が救われている、と言っておられます。あなたはそれ以上に強力なもの、確かなものを得る事は出来ません。

教師の皆様、この点で私のまねをしようとしてはいけません。でもこの部分をあなたの心の中に十分取り入れ、ここで生徒をのっぴきならぬようにする事が出来るようにして下さい。あなたの生徒が神のみことばを救いの確信の根拠とみる事を、あなたはきっと望んでいます。もしあなたがその事を生徒に示すことが出来なかっ

たら、その失敗はよみがえってきて、さらに道を進む時あなたを悩ませることでしよう。次の視点に移る前に、あなたの生徒に、もし御子を信じた事を確信出来れば救われている事を確信出来る、という点を知ってもらいなさい。あなたの生徒がその真理を掴んだ事がわかったら、次の視点に移りなさい。

5 次に図に示したように、「御子を信ずる者は」の下に、水平の逆さ括弧を加えなさい。また示されているように「あなたの側」を加えなさい。

あなたがそうした後、最初にやるべき事は、「あなたの側」とは、あなたの説明でまもなく示される事ですが、救いを必要とする人の側のなんらかのわざや行動を意味するつもりのものでは毛頭ない、という点を説明する事です。「あなたの側」がここで含まれているのは、この救いの問題が、人と神との間の問題だからです。両者がかかり合いになっているのです。神と「あなた」です。神がすべて救いの業をされ、あなたはすべてそれを受け入れるのです。「あなたの側」とは、元来失せた罪人の為の神の偉大なみわざを、すべて受け入れる事なのです。

この短い説明の後で、見本の図に示されているように、二つ縦線を加え、例示されているように、（1）（2）（3）を記入しなさい。（※（1）は者、（2）は信ずる、（3）は御子を、である）　あなたの生徒に「あなたの側」が三つの考慮すべき問題に分けられた事を教えて下さい。

第一に、あなたは「者」を説明します。「者」はこの文の主語です。そしてそれは一般的な代名詞です。という事は「者」はすべての人を含みます。ヨハネ３：３６の「者」は、ヨハネ３：１６の「すべて・・者」と同じです。この時点で図にヨハネ３：１６を加えなさい。「者」あるいは「すべて・・者」は実際に悪い罪人をすべて含みます。あまりに罪深くて救われない、という人は一人もいません。この時点で、イザヤ１：１８は図に加えて引用するのによい章節です。他方、あまりに善いので救いを必要としない、という人も一人もいません。すばらしく良心的でまじめ、敬けんで尊敬すべき人、立派な人々もすべて救いが必要です。ヨハネ３：３６の「者」はすべての人を含みます。

第二に、「御子を」という句を説明するのが最上です。「信ずる」という部分はたいていの人には、把握するのがもっと難しいところです。ですからそこで人々は

たいてい「お手上げ」です。それで私はそれを最後まで残しておくのです。さらにあなたは既にこの時点までに、あなたの生徒にほぼ４時間の教えをしており、その多くが「御子」を中心にしているのです。ですから「御子を」の説明は、この時点において、あなたにとっても、生徒にとっても平明であるべきです。「御子を」という句の説明にあたって、私は図紙をさっとめくりかえし、最初のページに戻り、十字架を指して「御子を」という句がイエス・キリストの事であると説明します。私は自分の生徒に、失せた罪人の為のキリストの偉大なみわざを既に説明した事を思い出させます。特に福音の事を思い出させます。イエスが罪人の為にその血を流されたみわざです。即ち罪人の代わりに死なれ、埋葬され、三日目に甦られた事です。そうしてから、また図紙をもとに戻して「御子を」を指します。私は生徒に信仰、信じる事は、イエス・キリストを、でなければならないと教えます。神は己のバプテスマ、よきわざ、教会、まじめさ、あるいはそうした類の他のどんな事でもそうですが、それらを信じる者に永遠のいのちを約束しておられません。「永遠のいのち」のみ約束は、ただ御子を信じる者に対してだけです。この事は、実際に救いをなすものが、信仰それ自体ではなく、「私たちの信仰の対象」である、いやイエス・キリスト御自身である、という説明に私を導きます。人は意のままに、間違った救い主を熱心に信じる事が出来ます。そしていまだ失せており、火の池に向かっています。これは救いの為にイエス・キリスト以外のあらゆる人や物を信じる者すべてに、実際あてはまります。それは己のバプテスマ、よきわざ、清い生きかた教会加入と関わり、あるいはまじめさなどを信じるすべての人々が失せており、火の池に向かっている事を意味します。神は他の誰でもなく、御子を信じる者すべてに救いを約束されたのです。図にヨハネ１４：６を加え、それを引用するか読みなさい。また使徒４：１２を加え、それを引用するか読みなさい。

ここで例を示して下さい。

私はこの視点確立の助けの為に、こんな例を用います。私は目に見える電気のソケットに差し込まれる机のランプ、トースター、あるいは他のいくつかの電気設備を示します。机のランプの場合、それ自体に輝く力がない事を指摘します。そのランプに光りをもたらす実際の力は、電力会社によって起こされつつあり、その電気

のプラグからランプに流れてゆくのです。私は自分の生徒にもしそのランプのプラグを自分の鼻に差し込んでも、ランプの光りが生じない事を教えます。たとえそれを電気の流れていないソケット（※原文はプラグ）に差し込んでも、光りが生じるとあらかじめ大いに信じていても、駄目なのです。私は自分の生徒に、光りを輝かせるものは自分の信仰ではない事を強調します。それをするのは、電力会社からの出力です。私の信仰は単に真の電源につなぐ為の手段に過ぎません。いかにそれが強くても、もし間違った力の源に置かれたら、価値のないものです。

同様に、信仰が失せた人々を救うのではありません。イエス・キリストがそうされるのです。彼こそが霊的力の真にして唯一の源であられるのです。私たちの信念あるいは信仰の出来る事といったら、自分をイエス・キリストに差し込む事だけです。そうすれば、彼が救いのみわざを私たちの内になして下さるのです。しかし間違った対象への信頼または信仰を置く人は、永遠の滅びです。信仰はキリストにでなければなりません。さもないと決して「永遠のいのち」はありません。けれどもイエス・キリストを信じるすべての者には、「永遠のいのち」は実在のものです。

第三に、このみことばの「信ずる」という部分を説明しなさい。たぶんあなたの生徒は、この「信ずる」とはいったいどんな事なのだろうか、と思っています。おそらく実際に信じもし、いつも信じてきた、と考えます。生徒はたぶんすぐあなたに、生涯一日たりとも信じなかった日はない、と言うかもしれません。生徒は不信心者でもなければ無神論者でもないのです。かって一度もそんな者ではありませんでした。それゆえ、もし生徒が常に信じてきたのなら、なぜ常に救われていたのではないのでしょうか。教師の皆様、この視点を非常に明白なものとするように注意して下さい。「信じる」という言葉は聖書で（また今日普通に）二つの主要な意味をもって使われています。私たちは普通「信じる」とい言葉を用いて、「諸事実」の受け入れを表します。図に「信じる」と書いて、既に示したように、「1.事実」を加えなさい。私たちは歴史的諸事実を信じ、自分自身の目で見る物事に関する諸事実を受け入れる、という点を説明して下さい。また多くの人はイエス・キリストに関連する諸事実を受け入れます。そうです、彼らはイエス・キリストがまさに実在した歴史的人物である事を信じます。彼が実際十字架で死なれ、その血を流され

墓に行かれ、三日の後に甦られた事を信じます。彼が今日も生きておられる事を信じます。そして自分たちが罪人であり、救いが必要であると信じます。多くの人がそこまで行っているのです。だからこれで彼らは救われていると考えるのです。でもそうではありません。「信じる」という言葉の使用法の第二番目のものがあります。それが、「信頼」「信仰」「信任」または「依存」という意味です。既に示したように、図に「2.信頼」を加えなさい。これがヨハネ３：３６で用いられている「信ずる」という言葉の意味なのです。英語に翻訳される前に使用されているギリシャ語の動詞を研究すれば、すぐにこの真理が証明されます。ヨハネ３：３６で、神はご自身を信頼する者すべてに「永遠のいのち」を与える、と言っておられるのです。単に諸事実を受け入れるだけの者に対してではありません。図にエペソ１：１３を加え、それを引用するか読みなさい。あなたの生徒に、一連の諸事実を信じる事と、あるものに自分自身を委ねる、あるいはそれを信頼する事とは、別の事柄であると教えて下さい。

ここで例を示して下さい。

もし私が自分の生徒に「あの大きなヒューストン空港に、大きなジェット機があると信じますか」と言えば、きっと「はい」と答えるでしょう。そこに行ったことがある人なら誰でも、いかなる時でも地上で多くの飛行機が常に行き来しているのを知っています。ですから、出来る限りの誠実さ、まじめさをもって、生徒はその質問に「はい」と答える事が出来るのです。「でも」私は自分の生徒に言います。「もし私があなたの為に切符を買ってあげて、あのジェット機の一つに乗り、飛ぶようになったら、私たちは突然新しい信仰の領域に入る事になります。一度あなたがその切符を手にし、歩いてジェット機に乗り、滑走路へ進むのを感じ、次にすごいスピードに加速されて機が離陸し、空に舞上がると、あなたはもはや単にこれがジェット機だという事実を信じているだけではありません。いまや信頼あるいは信仰の感覚を信じているのです。あなたはそれに委ねているのです。もしそれが下がれば、あなたも下がります。あなたはそれのなすがままになります。

人が［永遠のいのち」を受けようとするなら、これがイエス・キリストを信じなければならない理由なのです。単にイエス・キリスト存在の事実を受け入れ、聖書

の語る、彼のなされた事をした、というだけでは十分ではありません。救い、あるいは「永遠のいのち」は彼を信頼する事のうちにあるのです。彼に委ねるという意味において、彼を信じる事のうちにあるのです。仕事や安全等について、毎日彼を信頼し、助けを求めるから、救われているのだと考える人もいます。私たちはここで人生の数ならぬ問題への、日々の信頼について語っているのではありません。永遠の滅びと永遠のいのちについて語っているのです。失せているか救われているかについてです。「永遠のいのち」を受けるには、人はその霊の救いの為にイエス・キリストを信じる、あるいは信頼するのでなければなりません。私たちはここで、あなたの霊が天に届く為の、イエス・キリストへの信頼について語っているのであり、単なる仕事の為のからだの安全についてではないのです。

C今ヨハネ３：３６を逐一説明したので、あなたの生徒に、人が正確に二つのグループのうちのどちらにいるかについて照準を合わせる事の出来る、小テストをしてみたいと告げて下さい。

１その小テストの最初の質問は「私は救われていますか」というものです。既に示してある如く、あなたの図にそれを書きなさい。あなたの生徒に、もし誰かがその質問に対し「いいえ」と答えたら、その人は救いが必要である、と説明して下さい。もし人が「確信がありません」と言えば、その人は確信出来るようになる必要が所じてあります。たいした問題ではない事柄もありますが、人が救われているかどうかは、重大なことです。他のいかなる事柄にもまして、その事は重要です。人がもし「はい、私は救われています」と言えば、なぜそう言うのか、その理由が必ずなければなりません。その主張にはなんらかの根拠、わけがなければなりません。

２こうして第二の質問「どのようにして私は救われましたか」は順当です。それを図に記入しなさい。この質問は、救いの主張の根拠は何かを問うものです。この時点であなたは、あなたの生徒がどこに立っているかという質問で、直接生徒と対決するところまで、まだ行っていません。もうすぐです。でもここではあなたは、この小テストを第三者に対してのように提供しているわけです。それであなたはこう言います、「もし人がバプテスマを受けたから救われている、と答えたら、それにバツ印をつけて除く事が出来ます。その人は救われていません」あなたは間違った望

みの表を書き、同じようにしてそれらを除いてゆくのです。それには、よきわざ、まじめさ、教会加入と関わり等が含まれます。そうした人々は極一般的な罪人なのです。間違った答えの表にバツ印をつけて除外した後、あなたはあなたの生徒に、この質問に対する唯一の正解は、御子を信じたという事であると指摘して下さい。答えはそうした正確な言葉で表現されていないかもしれません。しかしその考えがそこに出ていなければなりません。イエス・キリストを信じた事によって、という理由以外のなんらかの方法で救われた、という考えを持っている人は誰でも、いまだ失せています。

3さて図に第三の質問「いつ私は救われたでしょうか」を書きなさい。あなたの生徒に、あなたが必ずしもカレンダー上の週の日、年月日を尋ねているのではない事を説明して下さい。でも、もし人がその消息を知っていたら、すばらしいことです。そして大抵の救われた人々は知ります。この質問であなたが問うている事は、人がその失せた状態を理解し、心にイエス・キリストを自己の個人的な救い主として、実際に信じた時があったという確実性です。人はその事が起きた時があったことを知るまでは、それが実際に起きたのだ、と確かに知ることは決してありません。かくてその人は自分の救いを決して確信出来ないのです。

今あなたの生徒に、救いの時に注意を絞った「生命線」を図に書こうとしている事を告げて下さい。図紙に水平線を引き、その上の左に「誕生日」と書き、右に「死亡日」と書いて下さい。矢印の先端を右に向けて下さい。そしてあなたの生徒に私たちの誰もが誕生日を持っており、皆最終的には死亡日に直面する事を思い出させて下さい。私たちはそれに直面したくありませんが、皆それがやってくる事を知っています。この時、既に示したように、図に「今」を入れて下さい。あなたの生徒に、あなたが任意に「今」を据えている事を説明して下さい。大抵の人はそれを「誕生日」近くに望みます。しかし実際には、あなたが据えた所よりも「死亡日」に近い事もありえます。ただ神のみが知っておられます。私たちは「今」を正確に据える事は出来ません。私たちが知っている事といえば、「今」が自分の誕生日と死亡日との間のどこかにあり、私たちが自分の死亡日に向かって進んでいる、という事だけです。

教師の皆様、ここであなたの生徒に、今日の日付と時間を図に記入しようとしている事を伝えて下さい。それはとにかくあなたがこの授業を教えている日付と時間になります。あなたの生徒に、誕生から今までの人生を振り返り、生徒が救われた時を示してほしい、と伝えて下さい。それは信頼という意味で、本当に御子を信じた時です。そして生徒がその事を考えている間に、この実際の人生の例にあずかってほしい、と伝えて下さい。

例

１９６８年頃ある教会で、１５才位の若い女の人が招きで前に出ました。何年もその教会の会員だった人です。クリスチャンホームで育ち、聖書については並でない知識がありました。そのよき態度とずっと続いているよきわざで、青年部の逸材でした。しかしその若い女の人は自分の霊的状態について悩んでいました。その救いについて疑いを持っていました。問題は短い招きの時の会話では、非常に複雑で扱えそうになかったので、牧師はその午後に彼女と会いました。救いの方法を徹底的に論じた後、牧師はこの三つの質問に進みました。その時までは、その若い女の人はすべて立派な答えをしていました。牧師が彼女の救いについて尋ねた時、彼女は、別の都市のあるバプテスト教会の朝礼拝から救いを持った事を語りました。その時８才でした。牧師は８才のその体験以前に心から「御子を信じた」事があったかどうか尋ねました。彼女は［いいえ］と答えました。次に牧師はその体験以来、「御子を信じた」事があったかどうか尋ねました。彼女はなかったと答えました。８才の時救われてから、その必要を考えた事はなかったのです。牧師は彼女に、今彼女が語った事は、誕生からこれまで一度も「御子を信じた」ことはなく、それが８才の時のあの日曜日に起きたのだけは別だ、という点を指摘しました。またもしそれが起きなかったら、彼女が失せていた事も指摘しました。彼女は牧師の言った事が正しいと分かりました。

それから牧師は彼女が８才の時のあの日曜について尋ねました。賛美と説教との間に救われた（本当にキリストを信じた）かどうか尋ねました。彼女はいいえ、と答えました。その時間の間、実際罪を知り、救いが必要である事も知りました。招きの時に救われよう、と計画していた事を語りました。それから牧師は、その招き

が始まった時又は前に進んでいる時、御子を信じたかどうか尋ねました。彼女はその質問に少しびっくりしたようでした。そして「いいえ」と答えました。また人々は前に出て救われたと思った、と答えました。それで牧師は彼女に、前に出た時、何が起きたのか尋ねました。彼女は説教者に会って、彼が自分に尋ねた事は何でも同意しようとしていた、と説明しました。あのすべての人の前でひどくおびえてしまったので、説教者がいったい自分に何を尋ねたのか実際にはわからなかった、と言いました。彼女は単に彼の言ったことに同意しただけです。そして急いで会員カードに自分の名前と住所を書きに行きました。牧師は彼女に、その説教者との出会いの時に、心の中で自分の失せた状態に直面し、本当にイエス・キリストを自分の個人的な救い主として信じたのかどうか尋ねました。彼女は率直に、そうでない事がわかっていた、と答えました。彼女はひどく恐れていたのです。彼女の関心の的は自分の失せた状態や、唯一自分を救って下さる神にはなかったのです。ただあの説教者や、すべての人々の事を考えていただけです。そして急いで事を片付けてしまおうとしていただけです。それから牧師は彼女に、そこに座ってカードに記している間に御子を信じたかどうか尋ねました。彼女は「いいえ」と答えました。前に出て説教者と会ったその体験によって救われたのだ、と説明しました。

それで牧師はその若い女の人にこう言いました。「あなたは私に、その日曜日の前から８才になったその時まで、一度も御子を信じたことはなかった、と言いました。そしてまた、それ以後も一度も信じたことがなかった、と言いました。今あなたは私に、８才の時のあの日曜日に御子を信じなかった、と言いました。あなたが今筋道立てて私に語った事は、あなたの誕生から現在に至る全生涯において、一度も御子を信じたことがなかった、ということです。確かにあなたは前に出て行き、バプテスマも受け、教会で活動的なすばらしい女性となりました。でもあなたは神が失せた人々に求められた一つの事柄を、一度も行いませんでした。あなたは一度も御子を信じませんでした。そして御子は、あなたがそうするまで、あなたを救う事がお出来になれませんし、またそうされません。確信がなかったのは、少しも不思議ではありません。御子を信じたという事さえ確かではなかったのです。そしてあなたが御子を信じたことを確信するまでは、決して救われている事を確信出来な

いのです。」

この若い女性は多くの人々の典型です。自分が救われたと想定される時点を注意深く調べてみれば、いろいろ敬けんなよい事をしたのがわかりますが、神が求めておられる一つの事柄を落としてしまったのです。祈り、招きで前に出て、自分の罪を本当に後悔し、泣いて、非常に感情的な体験を持ったのです。でも御子を決して信じませんでした。そして人がもし御子を信じないならば、他のすべてのものはよけいです。すべてゼロとなり、誰にも救いや確信を与えません。御子を信じる事のみが、人に聖書的な支えを持った救いと確信を与えられるのです。

その若い女性の場合、牧師は忘れられていたその務めのところへまっすぐ行くよう求めました。そして彼女にこの救いの問題は彼女とその説教者との問題ではなく彼女と主イエス・キリストとの問題である事を説明しました。さらにイエスはここにおられ、切にまた喜んで彼女を救おうとしておられること、それもイエスを彼女の個人的な救い主として信じたその瞬間に、そうしようとしておられる事を説明しました。彼女は目を閉じ、あの小さな部屋の隅で座っていました。牧師は待ちました。涙が彼女の頬を流れ、しばらくしてから彼女は言いました。「私は今イエスを信頼しました」それで牧師は彼女に、彼女の心のその決心に鑑みて、ヨハネ３：３６にある「永遠のいのち」の約束を、自分のものとして主張できる事を教えました。

Ｄ教師の皆様、今こそ神のみ前における生徒の立場につき、生徒に直接問う時です。

１白紙状態でどのグループにいるか、生徒に尋ねなさい。その質問をする時、回をぐるっと回し、生徒の前にもってゆき、二つの可能性を示してもよいです。

２もし生徒が救われていると答えたら、それについてあなたに語るよう求めなさい。いつ、どこでどのようにして、そうなったのかを。不快になったり、生徒を信じないような素ぶりをしてはいけません。反対尋問の弁護士のような役割をしてはいけません。この時までに、あなたはあなたの生徒とよい関係を保っているべきです。そしてあなたの質問を友達として提示し、生徒の人生の最大の体験を分かちあう事に関心を示すべきです。

３もし生徒が救われていないと答えたならば、その場ですぐ御子を信じるよう求めな

さい。間を置いて、あの牧師が若い女性に対して行った事をしなさい。あなたの事は忘れるように言いなさい。イエス・キリストがこの瞬間そこに立っておられ、生徒の救いを可能にし、それを望んでおられる事を伝えなさい。生徒と主がこのまったく重大な仕事を済ますまで、しばらく待つことを伝えなさい。

4もしあなたの生徒が過去のある時点で、本当に主を信頼したのかどうか不確実であるようなら、それがどんなに危険な事であるか、という点を警告しなさい。生徒に何はさておき、その問題をきっぱりと定める必要がある事を伝えなさい。私は前の体験を注意深く振り返り、いまだに自分が本当にやった事につき確信出来ない人々には、今主を信頼するよう勧めます。彼等にもし主を今信頼するなら、過去のその時起きたかもしれない事で駄目になることはない、と説明します。主は過去のその時点で実際に起きた事を知っておられるのです。ですからその時信頼が生じたのなら、今信頼する事はその時点で起きた事を傷つけたり、損ねたりしません。でもその時信頼が生じなかったとしたら、ここで今起こる事は全く違ってきます。世にある時だけでなく、永遠にです。個人の救いについて確実でないのは神ではありません。その個人なのです。なるほど過去のその時起きた事には確かではないかもしれませんが、ここで起きる事には確信できるのです。そして個人が信じたことを確信するまでは、決して救われていると確信できないでしょう。

5これらすべてをもってしても、この時点でいまだ自己のことについていささか確実でないように見える人々がいます。教師の皆様、私がこの時点で行う事の一つは、彼らに対しこんな風に言うことです。そしてそれは実際大変多くの人々を助けてきました。即ち、「今から少し前、私が全く救われていなかったと、ちょっと想定してみて下さい。実際には私は１９５４年の十月に救われました。でも過去のその時起きた事につき思い違いをしていて、その間ずっと失せていたとちょっと想定してみて下さい。でも今ここで、この瞬間に、私はあなたに、自分がイエス・キリストを自分の個人的な救い主として信頼している、という点を語ることができます。神は私の心を見て、私があなたに真実を語っていることを知っておられます。私はここで今、あなたに、もしイエス・キリストが、私の為のそのみわざにかんがみて、私を天に連れていってくれる事がお出来にならないならば、またそうして下さらな

いならば、私はそこにゆけないでしょう、という事を語っています。他に望みはありません。他に主張はありません。ただイエス・キリストだけです。

さてこの時初めて私がこの決心に到ったと、ちょっと想定してみて下さい。ヨハネ３：３６によれば、ちょうど今、神は私を救って下さったことになります。勿論私がその決心に到ったのは、それが初めてではありません。それは１９５４年の十月に遡ります。そしてその時主は私を救って下さったのです。今晩私がここでした事はそれを少しも傷つけませんでした。再び救われたのではありません。ただキリストへの私の信仰を再び確かめただけです。でももし私が過去のその時起きた事について、確信できない者の一人だったなら、今夜（今日）の決心が私にとってどんなに大切なことであるか、あなたなら理解できます。

さて教師の皆様、そのことをあなたの生徒の心の内に新鮮にすえて、生徒がここで今、正直に、自分の信仰、あるいは信頼がイエス・キリストに、彼のみにあると言えるかどうか尋ねなさい。多くの人が「はい」と言うでしょう。その時あなたは図のヨハネ３：３６を指して、「それなら神はあなたが何を持っていると言われますか」と尋ねることができます。生徒がこの時間にあなたのしたことと全く無関係でない限り、「永遠のいのちです」と言わざるをえないでしょう。さて、これがもし、生徒がこの決心をしたことの確信できる最初の時であるなら、それこそ「いつ私は救われたか」という、その時としていつも生徒が振り返ることのできる時点であることを、私は強調します。私はしばしば、図の日付を丸で囲み、正確な日時を書き記します。

６それから私はこの第４課を最後の一つの視点を添えて終えます。私は自分の生徒に明日、または次週、あるいは来年、もしかしたら生徒が自分の救いを疑うことがあるかもしれない、と指摘します。もしそうなったら、何ができるでしょうか。おそらく生徒は最初「私は救われているか」と自問するかもしれない、と私は生徒に指摘します。それに対し、生徒は「はい、私はそう考えます」と答えるでしょう。それから生徒は第二の質問をするかもしれません。「どのようにして私は救われたのだろうか」と。それに対しては一つの答えだけがあります。即ち「私はイエス・キリストを自分の救い主として信頼しましたから」というものです。さらにその後、

「いつ私はイエスを信頼したか」と自問するかもしれません。それには生徒は、あなたの書いた日時をもって答えるかもしれません。それから「キリストへの私の信仰にかんがみて、神は私について何と言われるだろうか」と問うかもしれません。生徒は自分で答えて、こう言うでしょう、「神は私が永遠のいのちを持っていると言われます」と。また「神はどこでそんな事を言われるか」との質問には、「聖書の中でです。ヨハネ伝３章３６節です」と答えるでしょう。それはあなたの生徒がその時、自分の疑いを忘れ、神に仕えるその仕事を進められる事を意味します。何故なら、書かれた神のみことばは、あなたの得られる最上の保証だからです。そしてすべての信徒がそれを持っています。

●あなたが去る時に。

１あなたの生徒に、これでこの第四課を終えますと告げて下さい。さらに、次週決められた時間に、交わりと正しく生きる為の正しい動機を扱う第五課を教える為に来ますと告げて下さい。第五課の題は「交わりの基本と神と共にあることの豊かな実」となります。

２生徒を教会に招きなさい。この時点では生徒がバプテスマの為に来ることを主張しません。またそれを思い留まらせることもしません。もし生徒にその必要を知る十分な背景があるなら、すばらしいことです。でも多くの場合、あなたの生徒はバプテスマとその意味する事柄について、かなり知識を欠いているので、ここでそのことに触れるのは、ギリシャ語に触れるようなものでしょう。第六課では、あなたはバプテスマを徹底的に教える事になります。その後私は生徒に、自分がしようとしている事をよく知っている者として、バプテスマの為にやってくるよう勧めます。

３人々が救われたところで、私は去る前にいつも彼らに頭を下げてもらい、神が彼らを救って下さった事を神に感謝します。

４それから立ち上がり、玄関まで進んで行きなさい。

ロマ14:11-12　ロマ2:2
ヨハネ17:17

神

サムエル前１６：７

１構成
２預言
３聖書の主張
　ペテロ後1:21
　テモテ後3:16
　コリント前2:9-10

福　音
ロマ1:16
コリント前15:1-4
１死
２埋葬
３甦り

新　生
ヨハネ3:1-14
ヨハネ第一5:1

信じる
使徒16:30-31
ヨハネ5:24
ヨハネ3:15-18

無関係

１失せた者
　ルカ19:10
２罪に定められる
　ヨハネ3:18
３罪の赦されていない
　使徒13:38-39
４不義
　ロマ1:18
５咎と罪とにて死にたる者
　エペソ2:1
６永遠の火の池
　黙示録20:14-15

創3:21
創22:1-14
出12
イザヤ53:7
ヘブル9:12
ヘブル10:1
ガ3:24-26
ヨハネ1:29
使徒8:32-35
ペ前3:18
ペ前2:24
ロマ5:6-8
ヘ10:10-14
ヨハネ19:30

関　係

１救われた者
　エペソ2:8-9
２義とされる
　ロマ5:1
３罪の赦された
　エペソ1:7
４義
　ロマ3:22
５永遠の生命
　ヨハネ5:24
６天国
　ヨハネ14:1-3

１００パーセントよいおこない

愛　バプテスマ　教会　礼拝　奉仕

１祈り
２賛美
３施し
４宣教
５主の晩餐

エペソ2:8-9
テトス3:5
イザヤ64:6
ロマ4:5

信じる

1.事実

2.信頼

Ⅰヨハネ5：13

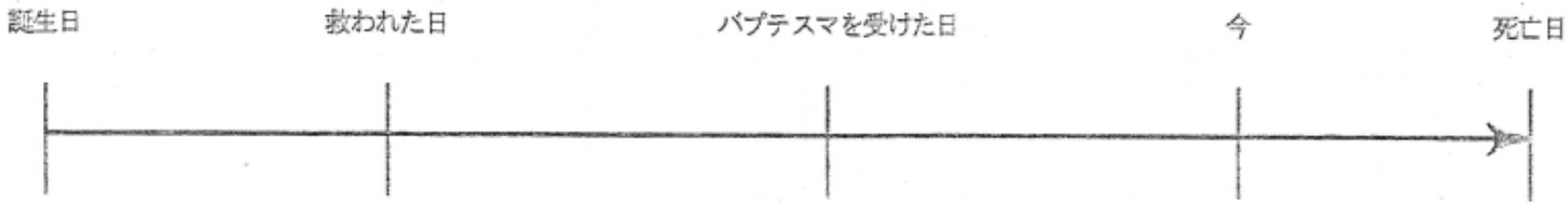
ヨハネ3：36

(1)	(2)	(3)	
ヨハネ3：16 イザヤ1：18	エペソ1：13	ヨハネ14：6 使徒4：12	ロマ8：31−39
者　は	信　ず　る	御　子　を	永遠の生命をもち
あなたの側			神の側

1.私は救われていますか

2.どのようにして私は救われましたか

3.いつ私は救われたでしょうか



第四課の為の学習紙と授業計画

主題

神がなされた事をいかに手に入れるか

意図

キリストの福音のみわざが、いかなる個人にとってもその価値となる為には、それが信仰によって受け入れられなければなりません。

適用

「信頼」という意味での信仰が何であるかを、生徒が理解しているかどうか確かめ、生徒に信じたかどうかという事柄に直面させることです。これは主としてヨハネ伝３：３６を注意深く調べることにより、成し遂げられます。この検証の間に、すべての失せた生徒には信じるように大いなる勧めがなされるべきです。

暗記すべき聖書の諸節

使徒１６：３０－３１「之を連れ出して言ふ　『君等よ、われ救はれん為に何をなすべきか』二人は言ふ『主イエスを信ぜよ、然らば汝は救はるべし。而して汝の家族も」（ＫＪＶ直訳－大山）

ヨハネ３：１５－１８「是れすべて彼を信ずる者の、亡ぶることなくして恒の生を有つためなり。そは神はその子、唯子を与へ給ふ程に、その如く世を愛し給ひたればなり。是れすべて彼を信ずる者の亡ぶることなくして、恒の生を有たんためなり。そは神は世を裁くために、その子を世に使はし給ひしにあらず、されど彼によりて世の救はるるためなりしなり。彼を信ずる者は裁かれず、されど信ぜざる者は既に裁かれたり。そは神の唯子の名を信ぜざりしが故なり」（永井訳）

Ⅰヨハネ５：１「凡そイエスをキリストと信ずる者は、神より生れたるなり。おほよそ之を生み給ひし神を愛する者は、神より生れたる者をも愛す」

ヨハネ３：３６「御子を信ずる者は永遠の生命をもち、御子に従はぬ者は生命を見ず、反つて神の怒その上に止るなり」

ヨハネ１４：６「イエス彼に言ひ給ふ『われは道なり、真理なり、生命なり、我に由らでは誰にても父の御許にいたる者なし」

概略

Ⅰ　神は失せた人々が神を信じる事のみを求めておられます。

Ａ神は「信ぜよ」と言われますが、そうでない者は別の考えを持っています。

Ｂその正しい事を聖書で見なさい。使徒１６：３０－３１；ヨハネ５：２４；ヨハネ３：１５－１８。

過渡的な考え：神の書かれたものは、世が考える事とは異なります。

Ⅱ　信仰の時点で、新生が生じます。

Ａ聖書の証：ヨハネ３：１－１４。

1.イエスは新たに生まれる事（ヨハネ３：３，５，７）とイエス・キリストを信じる事（ヨハネ３：１４－１６）を同等視されました。

2.Ⅰヨハネ５：１の証。

Ｂ神による家族のイメージの使用。

1.譬え話または対比：普通にみられる教育の工夫。

2.聖書の広範な家族的対比：マタイ６：９，Ⅰヨハネ３：２，Ⅰテサロ４：１３。

過渡的な考え：血筋，家族関係。

Ⅲ　人が救われているかどうかを決める特別な方法。

Ａその視点を表す為にヨハネ３：３６を用いるべき事。

Ｂヨハネ３：３６をいかに教え、表してゆくべきか。

1.Ⅰヨハネ５：１３は、私たちが救われている事を知り得ると証しています。

例：書く為のペンの長さの決定。

2.ヨハネ３：３６の肯定的な面は、神の「もし」と「それならば」の命題です。

3.神の側：「永遠のいのちをもつ」：「もつ」は今。「永遠の」は「一時的な」という意味ではありません。ロマ８：３１－３９；ヨハネ６：３５，３７，３９，４０。

例：女性のパーマ。

4.もし神が真を語っておられるのなら、すべての信徒が救われている事を知り得ます。

5.あなたの側：「御子を信ずる者は」：「者」は普通代名詞ですべての人を含みます。ヨハネ３：１６とイザヤ１：１８。「御子を」は信仰の対象に関わります。置き誤った信頼は何の益にもなりません。ヨハネ１４：６，使徒４：１２。

例：電気的な光を輝かせる力。「信ずる」は事実だけでなく信仰も含みます。エペソ１：１３。

例：飛行機の存在を信じる事とその一つに乗って飛ぶ事との相違。

Ｃ三つの質問を伴う簡単なテスト。

1.私は救われていますか。

2.どのようにして私は救われましたか。

3.いつ私は救われましたか。

生命線。

例：１９６８年ある教会の若い女の人。

Ｄあなたの生徒の個人的な立場。

1.どこにいるのか尋ねなさい。

2.救われていますか。

3.失せていますか。

4.不確実ですか。

5.不確実な生徒を助ける方法。

6.疑いを取り除く方法。

結論的な考え：次週の授業の主題は「交わりの基本と神と共にあることの豊かな実」です。